

II 障害者支援施設 久喜けいわ

平成28年度事業計画に基づき、以下の事業を行いました。

【生活介護・施設入所・就労移行・就労継続B型共通事項】

1 定員の充足

○現員と利用率

平成29. 3. 31現在

事業名	定員	現員	利用率
生活介護	定員67名	現員67名	95.6%
施設入所支援	定員54名	現員54名	96.7%
就労移行支援	定員15名	現員13名	82.8%
就労継続支援	定員32名	現員35名	100.9%
短期入所支援	定員 6名		88.3%

- (1) 生活介護は、3名の契約解除があり、その後の新規利用はありませんでした。
 (2) 施設入所では、9月に1名が他事業所に移り、10月に男性1名が腸閉塞による敗血症のため亡くなりましたが、短期入所の方が施設入所となり、現員の変更はありませんでした。

2 支援体制の整備

職種	人数	備考
常務理事	1	
事務局長	1	
参事	1	就労指導兼務
総務課長	1	
主幹	1	
事務員	4	障害者雇用 1名
清掃、営繕	2	
洗濯、清掃	2	障害者雇用 2名
施設長	1	
支援課長	1	
主査	1	
主任	6	生活介護・施設入所 4名、就労移行・就労継続B型 2名
スーパーバイザー	1	
生活支援員	36	生活介護 31名 就労移行 1名 就労継続B型 4名
職業指導員	3	就労移行 1名 就労継続B型 2名
就労支援員	1	就労移行 1名
目標工賃達成指導員	1	就労継続B型 1名
看護師	4	常勤 2名、非常勤 2名
管理栄養士	2	
計	70	

3 職員会議、研修の充実

- (1) 支援課会議、給食会議、各棟会議、作業班会議、就労支援会議など部署ごとの会議において、スーパーバイザーの指導を受けながら、支援や業務のあり方を中心に検討しました。
- (2) 研修は、OJTや会議での伝達研修も含め、必要性の高いものの実施・参加をしました。

(主な研修)

内部	新任研修、救急法講習、理事長講話、安全運転講習 介護技術研修、虐待防止研修、地域定着支援研修、歯科保健研修
外部	新任職員研修、中堅職員研修、サービス管理責任者研修 相談支援従事者研修、強度行動障害支援者養成研修 発達障害・自閉症者支援研修、高齢知的障害者支援研修 虐待防止・権利擁護研修、サービス管理責任者フォローアップ研修

4 利用者へのサービス

※ 重点事項4 参照

5 地域参加の促進・連携

積極的に地域の行事に参加し、クラブの発表や自主製品の販売を行い、たくさんの方々との交流を図りました。

月	行事名
4月	清久さくらまつり、久喜市れんげ祭り
5月	清久運動会、フレンドシップデー
6月	彩の国セルフまつり、ホットハートフェスティバル
7月	提灯祭り、天王様
8月	啓和会盆踊り、セルフバザール
9月	久喜市防災訓練、久喜地区平和と人権の集い ふれあいスポレクフェスタ
10月	西公民館まつり、ライオンズクラブ芋ほり、埼葛人権を考える集い 市民まつり、セルフバザール
11月	けいわ祭り、清久小まつり、食育まつり、彩の国ドリームフェスタ 久喜特別支援学校まつり、騎西特別支援学校まつり 県民の集い、あやめチャリティフェスタ
12月	鷲宮地区人権の集い
1月	
2月	まなびすと久喜、ホットハートフェスティバル
3月	はなさき公園まつり

6 やりがいのある職場作り、離職防止

※ 重点事項6 参照

7 危機管理及びリスクマネジメント

※ 重点事項2 参照

【生活介護・施設入所支援】

1 サービスの充実を図り、生活の質の向上

※ 重点事項4 参照

2 安心、安全な生活環境作り

※ 重点事項2 参照

3 意思決定の支援

- (1) 支援計画に盛り込み、日常的に要望を聴き取り、外出や買い物などの支援を行いました。言葉で意思を伝えられない人には、文字盤や写真を使用したり、日常的な細かなサインを見逃さないようにしたりして、本人の思いを汲み取るように努めました。
- (2) 自治会や給食会議では、意見を述べやすいように支援し、出された要望を活動や給食に反映させました。

4 高齢化、重度化への支援

- (1) 食事に関して、噛む力や飲み込む力が弱くなった人に対して、栄養士・看護師と協議しながら、食べやすい形態に変更しました。
- (2) 足腰が弱くなっている人には、医師や作業療法士の指示を仰ぎ、車椅子の調整や生活動作の見直し、効果的な運動などに取り組みました。

5 余暇支援の充実

- (1) 日帰りバス旅行を実施しました。

月 日	行き先	利用者	家族	職員
5月17日	河口湖と忍野八海	15名	7名	3名
9月13日	那須動物王国	15名	6名	6名
10月25日	群馬サファリパーク	15名	4名	8名
3月14日	八景島シーパラダイス	15名	5名	7名

- (2) 外出は、買い物や外食、カラオケ、映画、バス電車を利用した外出、イベントの参加や見学、ドライブなどを平日にも行いました。
- (3) 施設内では、機能訓練棟やグラウンドでの運動を多く行いました。
- (4) クラブ活動

月	マラソンクラブ	音楽クラブ
4月	行田鉄剣マラソン	清久さくらまつり
5月	打ち上げ(白岡運動公園)	
6月		リトルコンサート(久喜総合文化会館)
8月		啓和会盆踊り

10月		生きがい大学コンサート(県民活動センター)
11月	蓮田マラソン	けいわ祭り、あゆみの郷まつり
12月		利用者忘年会
1月	白岡マラソン	
2月	東京マラソン	

水泳クラブは、年間を通し、月2回ほど菖蒲の市民プールに行きました。

登山クラブの活動が行えなかったため、来年度は平日の実施を計画します。

6 他害のある人への支援

- (1) アセスメントやケース会議を通して他害行為の理由や支援方法を検討し、対人関係の調整や本人の欲求への対応、先の見通しが持てる説明など、気持ちの切り替えができるような支援を行いました。また、運動や外出など興味を持てる活動を提供しました。
- (2) 日常的に上記の支援に努め、一応の効果はありましたが、突発的な他害や支援員の目の届かない所での他害への対応は、引き続き課題となっています。

7 地域移行に向けて

※ 重点事項 5 参照

【就労移行支援】

1 新規利用者の開拓と利用率の維持

利用率は、昨年度の66.9%からアップしました。

利用率	82.8%
契約解除	4名(就職2名※、他事業所利用2名)
就労継続B型に利用変更	2名
新規利用	1名
再利用	1名(就職先の事業縮小による失職)

2 就労支援

- (1) 一般就労で必要な挨拶・身だしなみ・報告・連絡など、施設内作業や企業実習を通して身に着けられるよう支援しました。
- (2) 企業実習に取り組む際は、事前オリエンテーションや切符の買い方、公共交通機関を利用する際のマナーなどの通勤訓練を行いました。
- (3) 計7名の利用者が、一般企業での短期訓練、委託訓練、トライアル雇用を行いました。

3 就労支援センターとの協働と就職活動の促進

- (1) 就労支援センターと協働し、職場開拓、ハローワークの登録手続き、埼玉障害者職業セン

ターでの判定手続きの同行、就労支援などを行いました。

- (2) 就職面接に備えて、就労支援員による模擬面接や課題を想定した実技の練習を繰り返し行いました。

※（就職先）

就職者	会社名	仕事内容
男性（25歳）	(株)N I T	清掃、資源回収
男性（22歳）	(株)シンフォニア東武	清掃

4 就職者に対しての継続的な支援

職場定着に向けた巡回支援を支援センターのジョブコーチと連携して行いました。

【就労継続B型支援】

1 日中活動の充実

- (1) 本人に合った作業種に取り組んでもらい、工程を整理し、手順を分かりやすく説明しました。
- (2) 就労移行と合同の自治会を行ったり、給食会議に交代で参加してもらったり、マラソンクラブへの参加などの支援を行いました。

平成28年度 土曜日開所 活動一覧

月	移 行	継 続
4月	群馬こどもの国	レク（機能訓練棟）、DVD鑑賞
5月	原宿、浅草散策	菖蒲公園散策
6月	※ 土曜日開所なし	
7月	赤坂周辺散策	調理実習
8月	盆踊り	
9月	高尾山散策	さいたま水族館、ぶどう狩り
10月	映画鑑賞（モラージュ菖蒲）	カラオケ（外出、ワーク棟）
11月	啓和まつり	
12月	ボウリング（加須アイビーボウル）	運動（機能訓練棟）、DVD鑑賞
1月	初詣（大宮氷川神社）	映画鑑賞（モラージュ菖蒲）
2月	※ 土曜日開所なし	
3月	日帰り旅行（千葉県）	

2 受託作業の確保と作業工賃の向上

受託作業や実習先を増やしましたが、工賃は微増に留まりました。

平均工賃の推移

年 度	平均工賃(円)	工賃総支給額(円)	支給対象延人数
平成26年度	10,500	4,262,899	406人
平成27年度	9,109	3,816,546	419人
平成28年度	9,656	4,142,565	429人

3 けいわ味噌、餃子の品質改良と販路の拡大

- (1) けいわ味噌については、官能試験を重ね、品質向上を目指しました。管理

栄養士と協力して販路拡大を図った結果、近隣の特別支援学校との取引に繋がりました。

- (2) 餃子については、事業所内で試食会を行い、様々な意見を参考に具材や調理方法について検討を重ねました。
- (3) 久喜市鷲宮手をつなぐ親の会からの「きっちんこすもす」（鷲宮東コミュニティセンター内）の営業の引き継ぎは3月になってしまいました。今後、利用者の実習の場として、味噌・餃子の販路先として、活用していきます。

【重点事項】

1 機能訓練棟の有効活用

- (1) 生活介護は、平日の午前中に運動を行うグループを設け、音楽に合わせた歩行やエアロバイク、ルームランナー、昇降台、肋木、ボールプールなどの器具を利用した機能訓練を行いました。また、法人内他事業所も運動の場として何度か使用しました。
休日にはバスケットやバドミントン、卓球など余暇活動として使用しました。
- (2) 昨年度と同様に、盆踊り、啓和まつり、歌手のコンサート、職員研修の会場としても有効活用しました。

2 危機管理及びリスクマネジメント

- (1) 7月に津久井やまゆり園の事件があったため、刺股を各部署に用意しました。防犯カメラ等の設備に関しては、29年度に補助金申請をして整備する予定です。
- (2) 水害への対応も含め、防災計画を作り直しました。
- (3) 健康や安全に気を配り、インフルエンザは広がらずに済みましたが、怪我や病気への対策には課題が残りました。利用者一人ひとりのリスクを見逃さないよう対応を強化する必要があります。

3 ケアマネジメントサイクルに沿った利用者支援

サービス管理責任者が中心となり、担当者とプランの進行を確認しながら、目標達成に向けた支援を行いました。ケース会議では支援の効果を確認し、必要に応じて支援方法を変更しました。

4 基本サービスの質の向上

- (1) ハード面として、生活棟ダイルールの壁面とテラスの塗装、男性棟トイレの修繕、テラス靴入れ、ダイルーフソファの買い替え等の環境整備を行いました。また、生活棟の食事では、ご飯が冷めないように茶碗に蓋を付けるようにしました。
- (2) ソフト面のADLや健康などの支援は、支援計画に沿って本人の状態に応じた支援を行いました。着衣や身だしなみの支援、転倒や打撲の防止が

十分に行えませんでした。

- (3) 日中活動と余暇支援についても、支援計画に沿って行いましたが、利用者間の兼ね合いがありますので、引き続き工夫して取り組んでいく必要があります。
- (4) 虐待防止・権利擁護については、上司からの指導や研修を行いましたが、意識の差があり、利用者の呼称や支援の仕方が適切でないことがありました。最重要のスキルとして権利擁護意識を強化する必要があります。

5 地域移行に向けて

男性棟・自立棟でそれぞれ男性1名、女性棟1名が定期的にグループホームの体験利用を行いましたが、移行には至りませんでした。

6 やりがいのある職場作り、離職防止

- (1) やりがい(働きがい)が持てるよう、研修やキャリアパス(職務点検、面談等)を通じて、職員一人ひとりのスキルアップに取り組みました。
- (2) 全職員対象のストレスチェックを行い、若い職員にストレスが高い傾向が出ました。人員が少ない状況が負担となっていたため、年間を通して職員募集を行い、人員を増やしました。気持ちの余裕が持てるような対策をさらに取り組んでいく必要があります。

7 成年後見制度の利用

事情があって家族による手続きが見込めない方1名について、市長申立ての手続きを開始しました。